

ゼミ活動報告 「SHARP 企業訪問しました」

浜田倫子

9月7日、シャープの歴史・技術ホール天理を訪問しました。宮川ゼミ2期生は天理駅に到着の後シャープ総合開発センターへ。独特な町並みを抜けた先に見えたのはお馴染みの「SHARP」のロゴが掲げられたとても大きなビルです。私たち SHARP 分析班の星野、苅谷、浜田はレポート発表への不安と緊張と、その後の永井さん・渋田さんディスカッションへの期待で胸がいっぱいでした。



歴史・技術ホールの見学、分析レポートの発表の後、質問を交えながらのご講評・ディスカッションという流れでした。シャープからは永井さんと渋田さんがお忙しい中をご対応下さいました。

まず始めに歴史・技術ホールの見学です。創業者である早川徳次さんは若くして今のシャープの製品につながるユニークな発明を数々されました。特に印象に残ったのがそろばん付電卓です。電卓がまだ信用されていなかった時代、検算用にそろばんを取り付けられたとのこと。分析において沿革や歴史については調べていたものの実際の製品を見ると開発の軌跡や、財務分析からは感じられない消費者の視点からの創意工夫がひしひしと感じられ、総合電気メーカーとしてのシャープへの理解が更に深まりました。

そして本日のメインイベント、SHARP 班による分析レポート発表です。内容は ROA・ROE を中心とした財務分析と、私たちなりの簡単なシナリオ予想・売上予測でした。目まぐるしく状況が変わる中で有用な資料を集めることは難しく、どうしても私たちの分析は短期目線になってしまいました。財務分析だけにとらわれない総合的な視点からのアドバイスをたくさんいただき、とても勉強になりました。メーカーの特性上、技術力だけではなくマーケットのニーズに対応することが重要だという永井さんのお言葉には胸が打たれました。私たちも今後企業分析する上で数値だけではなく企業そのものの特質も分析することが理解への第一歩だと感じました。



シャープは今年で創立100周年を迎える日本を代表するメーカーです。私自身も物心ついた時からシャープ製品に囲まれて育ってきました。現在厳しい経済状況下にあります。私たちが本来の理念を受け継ぎ、日本企業を発達させていくために何ができるかを考えることが大切だと感じました。

永井さん、渋田さん、お忙しい中非常に有意義な時間をありがとうございました！